

ふるさと講座自然系

「秋の渡り鳥観察会」

～希少種「ユキホオジロ」を観察しました。～

11月28日(日)ふるさと講座自然系「秋の渡り鳥観察会」を開催しました。講師は上西春別中学校の藤井薫先生です。観察場所は、普段行くことの出来ない半島先端を目指しながらの観察となりました。途中、江戸時代の鯨漁で賑わいを見せた野付番屋跡遺跡で、皿や徳利、鉄鍋などの破片を見ることが出来ました。

観察できた鳥は、天然記念物のオオワシ、オジロワシ、コクガンをはじめ、オオハクチョウ、ヒドリガモ、スズガモ、コオリガモ、オオバン、ハヤブサそして、ユキホオジロという希少種を観察することが出来ました。ユキホオジロは自生するハマニンニクの種を餌にしていることから、野付半島や走古丹先端の遠太などが町内の主な観察場所として知られています。



埋蔵文化財包蔵地の

所在確認調査をしました。



町内には 85 ケ所の埋蔵文化財包蔵地が確認されています。この度、北海道と別海町による所在確認調査を風蓮湖周辺の 6 遺跡を対象に行いました。

調査対象の遺跡はいずれも保存状態は良好で、すべて確認することが出来ました。写真は、約 1 千年前の擦文時代の竪穴住居です。葉や下草のない秋や春はこうした竪穴の様子が良く観察する事ができます。

(写真左の赤線が竪穴の輪郭です。)

近世の別海を探る 「西別川河口から北」～その1～

ホンニシヨマベツ

文献資料の標記は「ホンニシヨマルベツ」「ホンニシヨマベツ」があります。

『根室旧貫誌』喜多野省吾 安政5年(1858)

『東西蝦夷山川地理取調図十四』松浦武四郎 安政6年(1859)

エシヨマヘツ（現在の西丸別川）

文献資料での標記は、「ニシヨハラマヘツ」「ニシヨマラベツ」「エシヨマベツ」「キシヤマルベツ」「ニシハラバベツ」「ニシヨマルヘツ」「ニシヨマルベツ」「エシヤマルヘツ」「ニシヨマラヘツ」「ニシヨパラベツ」などがあります。

○地名の由来

〔ニシヨマラヘツ〕

- ・「浪高之節寄木川え流込を名付よし」
- ・「ニシヨマヲロヘツ木敷ごとく浮沈有川」

『丙寅慶応二年正月吉日万覚帳安政六未年子モロ地名和解書』加賀伝蔵 安政6年(1859)

〔ニシヨマルヘツ〕

- ・「ニシヨマヲロヘツ 木管ごとく浮沈有川」

『蝦夷方言 藻汐草[写]根室国境区域[根室地名解]』加賀伝蔵 明治2年(1869)

○地勢・建物など

松前藩復領時代 文政4年(1821)～安政元年(1854)

- ・「川有りよし。」『初航蝦夷日誌』松浦武四郎 弘化2年(1845)
- ・「小川有」『古人の邑嚙 嘉永七甲寅年間七月[子モロ場所]』加賀伝蔵 嘉永7年(1854)
- ・「小流」『村垣淡路守公務日記』安政元年(1854)

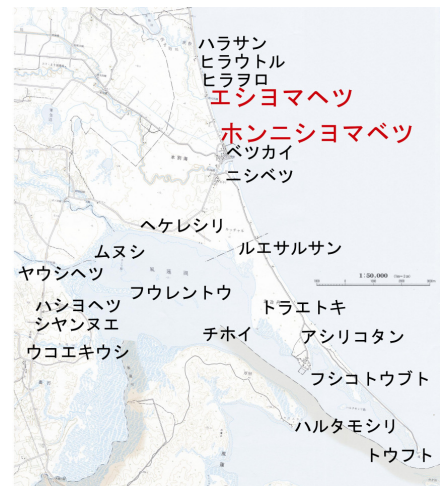
幕府再直轄時代 安政2年(1855)～慶応3年(1867)

- ・「(小川)平沙地、上に茫地〔落地カ、谷地〕多し。」『東西蝦夷山川地理取調紀行 東蝦夷日誌』

松浦武四郎 安政3年(1856)

- ・「但小川有」『根室旧貫誌』喜多野省吾 安政5年(1858)
- ・「浪高之節寄木川え流込を名付よし」・「ニシヨマヲロヘツ木敷ごとく浮沈有川」

『丙寅慶応二年正月吉日 万覚帳 安政六未年 子モロ地名和解書』加賀伝蔵 安政6年(1859)



『別海町管内図5万分の1』別海町役場



別海町郷土資料館だより No.137

発行日 平成22年12月1日

発行所 別海町郷土資料館

別海町別海宮舞町30番地

電話 0153-75-0802 (FAX 兼)

e-mail kyoudo@betsukai.jp

編集後記

待望のユキホオジロを見る事ができました。冬期間の渡り鳥として希少でこの地方で観察出来るということで、いつもそのチャンスに恵まれていませんでしたが、確かに見ました。遺跡の所在確認でいくつか気のついた点がありました。今後の調査検討課題となりそうです。(K.I)